

UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO

会報

2008.7 No.32

Messages from New Leaders in Kyoto
大学のまち京都の魅力を
連携の力でより強固なものへ

京都学術共同研究機構
季刊アカデミア

インターンシップ特集
未来の自分のために、
今の自分ができること。

単位互換特集
単位互換制度を活用して京都で学ぶ。

TOPICS
PROJECT REPORT

Information
近日開催予定の行事・イベント



財団 大学コンソーシアム京都
法人 The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>



大学のまち京都の魅力を 連携の力でより強固なものへ

大学コンソーシアム京都は、その前身である「京都・大学センター」の平成6(1994)年6月の設立以降15年目を迎え、本年度はひとつの節目を迎えます。この短い期間の活動の中で、教育事業、高大連携事業、リエゾン活動や高等教育研究事業等の多様な取り組みを推進し、「大学のまち京都」の新しい魅力を創造してまいりました。その中でも多様な建学の精神と特色をもつ50の大学・短期大学の存在が、大学のまち京都の魅力を形成し、それらの一つ一つの大学の連携が、より一層、魅力に磨きをかけているともいえます。

知識基盤社会、グローバル社会といわれる今の時代において、個々の大学・短期大学が特色ある改革を推進していくとともに、大学間連携、産官学地域連携の取り組みを進め、「大学のまち京都」の魅力を発信、新たな学術文化都市を創造していくことが我々に求められています。

今回、大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学で新たに就任された4名の学長から、就任の抱負と大学のまち京都、大学コンソーシアム京都へのメッセージをいただきました。



京都経済短期大学
学長
の が み の り お
野上 憲男

「大学のまち京都」

開学から16年目を迎える比較的新しい京都経済短期大学は洛西の竹林の中に静かに、落ちついた学舎を構えています。その学舎は西山に夕日が映える頃、朝来学した時よりも多くの達成感と満足感を胸に抱いて家路に向かう学生たちを日々見守っています。本学は一日一日の大切さを重んじながら学生の人間的、学問的高揚を目指し、緑に囲まれた京都のまちという素晴らしい環境の中で伝統と文化を糧として発展に努めてきています。

さて、京都というまちは不思議なくらい和洋折衷の自然な環境を醸成してくれ、学問活動を円滑に進める上でも強いパワーを私たちに与えてくれています。それは京都のまちに深く根づいた長い伝統と文化とが有機的に和合しているからかもしれません。その和合を生み出す源泉は京都固有の自然の奥深い美しさ、無数の寺院、神社、人々の生活などの生み出す神秘的な空気によるものです。私が殊に心を引かれるのは京都のまちという言葉の醸し出す優しさと温もりです。京都

のまち中であれ、山間であれ、他の地域では想像できない優雅さと気品、そして神秘さがいつでも、どこにでも漂っています。私は詩作が趣味ですので、川原、竹林、寺院、山を散策しますが、思わず知らず無意識の内に詩的瞑想に耽ってしまいます。それは京都を訪れる人たちみんなが味わえる情趣であり、心を和ませしてくれるものです。

青々とした高い空は天蓋であり、緑に囲まれたまち全体が一つの住まいであり、比喩的に申すならば京都というまち全体が大学というキャンパスそのものに思えます。まさに、京都というまちは我々が与えるもののみを我らは受容するという哲学的思索の答えを与えてくれるまちです。このような素晴らしい環境とうまく調和して、それぞれの大学が有機的関係を構築し、大学のまち京都の情報を世界に向けて発信させてゆきたいものです。京都は町、街よりも、まちが似合うまちです。



京都創成大学・
京都短期大学
学長

たか の かず み
鷹野 和美

「北の福知山から大学のまち京都に向けて」

藤田前学長の後を受けて、今年度から京都創成大学・京都短期大学の学長に就任しました。本学は、福知山市において一三〇有余年の伝統を有する学校法人成美学苑が設置する、北近畿唯一の四年制大学です。京都創成大学という大学名には、大学の創設に託された地域の方々の想いが込められています。「創」と「成」の二つの文字には、新しい世界に挑み、果敢に立ち向かっていこうとするエネルギーが溢れていると考えています。この原点を忘れることなく、これから、ここから、全国のどの大学にもない特徴を持った大学作りを実践していこうと思います。また、大学コンソーシアム京都の加盟大学としては、もっとも距離的に離れた場所に位置しますが、「大学のまち京都」の一翼を担うという気概と誇りだけは維持していかなければならないと考えています。

北近畿の地方都市に所在する本学の、重要な使命のひとつは、地域と大学・市民と大学との共生にあると考えます。大学の有する知的財産とノウハウ、いわゆる

シーズを広く一般に公開し、地域のニーズと結びつける活動を精力的に展開してまいります。総合型スポーツクラブの連合体であるクラブリンクJAPANと提携して、ウェルネス・マネジャーの養成を行い、幼児体操教室や介護予防教室を開講するなど、これまでになかった新たなチャレンジを次々と実施して、地元市民の皆さんと共に学び、共に成長していく関係の構築を図ってまいります。併せて、遠く福知山から京都に向けて、常に情報を発信できる大学にしていきたいと願っています。明治初頭からの、その歴史の上になつて、第二の創設ともいふべき、新たな大学づくりに着手しました。本当の意味での大学づくりの始まりです。

五〇歳という年齢で学長という重責を担わせていただきました。浅学若輩の身ではありますが、大学コンソーシアム京都の一員として恥ずかしくない、地方にあってキラリと輝く大学を創成してまいります。



京都文教大学
学長

たたら みきはちろう
鑪 幹八郎

「大学コンソーシアム京都と京都の大学」

前学長の樋口和彦先生の後を受けて、平成20年4月1日から新しく学長になりました。皆さまのご理解とお力添えて職責を全うしたいと考えております。

京都文教大学はそのスタートが1904年です。現在、105年目を歩いております。創立の理念を仏教精神におき、「響きあうこころ、生かしあういのち」を掲げています。当時恵まれなかった女子教育からスタートしました。今日では男女共学の幼稚園から小学、中・高校、短期大学、大学、大学院という総合学園に発展してきています。

京都は古い伝統の文化と新しいアイデアの町です。これらの伝統の文化の厚い集積と新しいアイデアを生かし、それを次世代に伝えようと、多くの大学が存在しています。それぞれの大学はそれぞれ特色を持ちながら、協力しあい、学びあっていくことができます。これが次世代の知的、文化的な蓄積と伝統になって、京都の町にさらに文化的な厚みを増していくのではないのでしょうか。

京都コンソーシアムのような組織が存在し、学びあい、研究の交流の機会がつけられているのは、日本の都市として稀有なものではないでしょうか。大学で学ぶ学生や教育・研究に携わっている教員にとっても、刺激的な組織であり、場所であると思います。大学がお互いに特徴を生かして、学びあい、刺激しあっていけたら素晴らしいと思っております。特色のある大学がお互いに協力することによって人材の教育や研究に携わることは大変意義深いことと考えられます。また、学生や社会人に学びの場を提供し、研究者の意見の交換や交流の場となることは、現在のような社会的情勢や教育の情勢では、必須のものかも知れません。大学としても、このような知的な交流を通してお互いに発展していくことができればと思っております。



京都文教短期大学
学長

やすもと よしまさ
安本 義正

「大学のまち京都、大学コンソーシアム京都に対する期待」

この4月より、伊藤唯真前学長の後を受けて、京都文教短期大学の学長に就任いたしました。皆様方のご指導を賜りながら重責を果たして参りたいと存じます。

1994年に「京都・大学センター」が発足して以来、私自身はセンターに随分と育てられたように思っております。単位互換科目担当やFDフォーラム研究交流会での報告などをさせていただく機会もいただきました。1998年にセンターが「財団法人大学コンソーシアム京都」と名称変更されてからも、私の重要な研鑽の場となっております。

短期大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、対応策として四年制大学化や短期大学部化による活性化などが試みられていますが、短期大学に対する社会のニーズや期待は失われることはないと思っていますし、そういったニーズや期待にきちんと応えなければならない責務もあります。私自身、2006年の第3回高等教育政策研究セミナー「高等教育機関における短期大学の課題と展望」において、本学の取り組みの一端をお話しさ

せていただきましたが、現在も地域に根ざした短期大学づくりを進めております。

さて、大学が社会のニーズに応えるものの一つとして、社会人入学の促進が挙げられます。しかし、既存の学科・専攻への入学には限界がありますので、社会人のニーズに応える新しい学科・専攻の設置は如何でしょうか。一大学単独での設置にはリスクも伴いますので、複数大学による共同設置を検討してはと思います。さらに今また、教養教育の重要性が叫ばれており、各大学もその充実を図っておりますが、学生の多様化した教養ニーズに応えるために、現在の単位互換制度を発展させ、多くの学生たちが自由に共通の教養科目を受講し、単位取得ができるような新しいシステムを考えてはと思います。

大学単独での教育改革・改善は勿論のこと、それぞれの大学が連携して、さらなる新しい教育システム・教育プログラムの構築を進めることも重要かと思えます。ますます「大学コンソーシアム京都」の役割は重要になってくると思えます。大いに期待しております。

2008年度 公募型(若手枠)共同研究プロジェクトのご紹介

2008年度より、公募による共同研究プロジェクトは、「一般枠」と「若手枠」にわけて募集を行ったところ、「若手枠」においては、次の1件を採択しましたので、今後の研究成果を期待して、ここにご紹介します。

研究課題 // 「テレビ広告における関西のイメージ —日本・台湾・タイのテレビ広告の比較—



プロジェクトリーダー
ポンサピタクサンティ・ピヤ
(京都精華大学非常勤講師)

現在、関西(京都・大阪・神戸など)のイメージは、日本のテレビ広告にしばしば表れている。たとえば、日本茶の広告には、京都弁、京都らしい住宅、着物などのイメージが頻繁にあらわれている。それでは、こうした関西のイメージは、海外の広告においても同様に見られるのだろうか。そこで、研究の目的は、日本、台湾、そして、タイのテレビ広告における日本と関西のイメージの現れ方の類似点あるいは相違点を考察することである。

テレビ広告における日本イメージに関する先行研究について整理してみると、アメリカ・イギリス・フランスなどの西洋の諸国のテレビ広告では、日本のイメージに対する好感度が低いのにに対して、ほとんどのアジア諸国のテレビ広告では、日本のイメージに対する好感度は高い傾向にある(川竹他 1987、1989、1991、1992)。アジアにおいてはテレビ広告のスポンサーが日本企業であることが多く、これがその国の日本イメージに直結する結果となることがしばしばある。たとえば、川竹他(1992)は、1990年の4月のタイのテレビ広告の12本を分析し、タイのテレビ広告における日本イメージに関する調査結果によれば、主なスポンサーは、日本企業が多い。すべての品目について、「日本製は高級、良質」のイメージがあるので、ブランドを強調する。

しかしながら、最近、こうした研究はあまりみられなくなっている。さらに、日本のテレビ広告にあらわれる関西のイメージに関する研究は、管見の限りほとんど存在しない。ただし、台湾のテレビ広告には、日本語、日本人のタレントなどの日本イメージがよくみられる。そして、最近、タイのテレビ広告においても、日本語、着物、侍、日本のロケーションなどの日本のイメージに代表するシンボルがよく登場するようになっている。したがって、本研究では、現在、日本、台湾、そして、タイのテレビ広告に

おける日本や関西のイメージは、どのように受け取られるのかを検討しようと考えている。

これまでアジア諸国においての日本文化からのゲーム、マンガ、アニメ、ドラマなどの研究がよくみられるのに対して、テレビ広告における日本イメージを分析した研究は少ない。また、テレビ広告における関西のイメージの研究となるとまったく見あたらない。さらに、これまで日本、台湾、そして、タイにおいて、テレビ広告における日本イメージ、とりわけ関西のイメージについての比較研究がほとんど存在していない。

こうした状況のもとで、日本、台湾、そして、タイを日本のイメージという視点から比較研究したという点も、本稿のもつ重要な特色のひとつである。そして、日本におけるテレビ広告を、他の国々のそれと比較検討した研究は、アメリカ、ロシア、スウェーデン、マレーシア、韓国など、すでにいくつか見いださう。しかし、本研究のように、日本のテレビ広告における日本と関西のイメージを、台湾とタイのそれと比較したものは、管見の限りほとんど存在しない。その意味で本研究は斬新なものであり、これまでにない新しい知見をもたらさうのではないかと考える。

また、新しい文化として、台湾とタイのテレビ広告における日本の文化の影響を検討する上で、台湾とタイの事例として、日本以外の海外諸国、とりわけアジア諸国で応用できると考えられる。さらに、ポピュラーカルチャーとしての日本、台湾とタイのテレビ広告における日本イメージや関西イメージの現れ方を明らかにする。

こうした本研究の結果から、これらの三つの国の事例として、世界における他の国のテレビ広告における日本イメージと関西のイメージに関する比較研究に貢献すると考えられる。そして、テレビ広告における日本イメージと地域性からみる新たな分野に通じて、日本、台湾、そしてタイの友好関係をより一層深めることを期待する。

さらに、調査方法にあたっては、1) 広告サンプルの収集と分析、2) 視聴者による信頼性の検証、3) 広告専門家へのインタビュー、という三点にしばり調査する。

なお、プロジェクト研究者は次のとおり。

プロジェクト研究員：木村 晶彦(同志社大学大学院博士後期課程)
：鄭 詩恒(京都大学大学院博士前期課程)
：大浦 冬樹(関西学院大学大学院博士前期課程)
リサーチアシスタント：中島 満大(京都大学大学院博士前期課程)

プラカレ あれこれ

京カレッジ

大学コンソーシアム京都と京都市が連携して実施している、各大学の「講義」「市民教養講座」「資格取得講座」などの生涯学習事業。

プラザカレッジ

大学コンソーシアム京都の「京都学術共同研究機構」が、研究成果の還元として、キャンパスプラザ京都を拠点と実施している生涯学習事業。

2008年度 京カレッジへの提供講座のご案内

京都学術共同研究機構では、京カレッジに対して、プラザカレッジへの導入講座として、次の講座を提供して実施します。現在、受講定員に若干の余裕がありますので、希望される方はお申込ください。お待ちしております。（詳しくは、京カレッジ生募集ガイドをご参照ください）

【場 所】キャンパスプラザ京都 【受講料】無料

第1回

9月28日(日) 14:00~15:30

「原理主義と暴力」

講 師:森 孝一(同志社大学神学部教授、一神教学際研究センター長)

第2回

10月5日(日) 14:00~15:30

「地球温暖化と異常気象」

一環境破壊による自然の暴力一

講 師:増田啓子(龍谷大学経済学部教授)

2008年度 プラザカレッジ21世紀学講座のご案内

「暴力<バイオレンス>」—心と身体と社会を映す鏡—

初回は、井筒和幸監督を講師にお迎えしてお届けします

その他各回も著名な研究者を講師に迎えています



21世紀の世界においては、国家、メディア、家庭内、医療、自然、宗教等においていろんな形での暴力の危機があります。力の論理でやっていく暴力もあれば知らず知らずのうちにやってしまう暴力もあります。暴力(バイオレンス)ひとつをとってみても見方・切り方によっては、実は気付いていないということが沢山あることの気付きを提示できればと考えております。

初回の10月19日は、抒情性と痛快さをあわせ持つエンタテイメントを作り続けている映画監督の井筒和幸氏を講師に迎えて、主として映画を通してのバイオレンスについて井筒監督のお話をトークショー形式でお届けします。この他、各回においても、それぞれの分野で著名な研究者を講師にお迎えしてお届けしますので、多数の方の受講をお待ちしております。(受講申込受付は、9月中旬から行います)

会 場 キャンパスプラザ京都

時 間 14:00~15:30

定 員 250名

受 講 料 (予定) 加盟大学学生・・・全8回事前受付3,000円、当日受付 500円
一般社会人・・・全8回事前受付8,000円、当日受付1,500円

開講日	テーマ	講 師
第1回 10月19日(日)	<トークショー> 映画にみるバイオレンス(テーマ調整中)	井筒 和幸(映画監督) インタビュー:神谷雅子<京都シネマ・如月舎代表取締役>
第2回 10月26日(日)	メディアの影響 —情報学からパースペクティブ—	松原 伸一 (滋賀大学教育学部教授)
第3回 11月 2日(日)	国際政治における暴力	村田 晃嗣 (同志社大学法学部教授)
第4回 11月 9日(日)	暴力/非暴力、そして自由/不自由 —犯罪や刑務所から考える—	古川 哲史 (大谷大学文学部准教授)
第5回 11月16日(日)	子どもたちにとって、ネットいじめはどれほど痛いか —ツールとしての携帯とその暴力性を考える—	原 清治 (佛光大学教育学部教授)
第6回 11月23日(日)	アメリカの差別と人権 —アフリカ系アメリカ人の歴史—	ロバート F.ローズ (大谷大学文学部教授)
第7回 11月30日(日)	家庭内暴力の影響 —虐待と非行・DVの連鎖を読む—	野田 正人 (立命館大学産業社会学部教授)
第8回 12月 7日(日)	公的暴力・私的暴力	上野千鶴子 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

未来の自分のために、 今の自分ができること。



財団法人大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、全国に先駆けて1998年から本格的に導入し、今年で11年目を迎えます。

京都地域にある50の国公立大学・短期大学の学生のすべてが参加できるという大きなメリットを活かして、これまでに約4,500名の学生と延べ2,000を超える企業や行政機関、非営利組織(NPO・NGO)等が参加している全国随一の規模で実施する「大学のまち・京都」ならではのプログラムです。

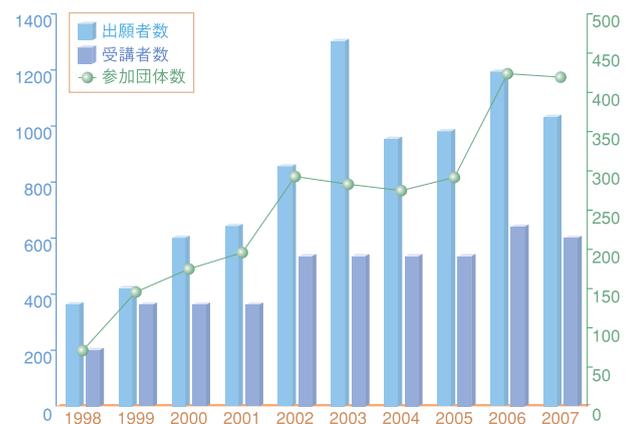
インターンシップとは？

一般的にインターンシップとは、「学生が、夏休みに2週間から1カ月程度、企業や行政機関等で正社員・正職員に準じる立場で、かつ無報酬で就業体験を行う」ものです。つまり、多くのアルバイトのように「給料を得て、マニュアル化された業務をする」というものではありません。

インターンシップは、単に就業体験をするだけでなく、大学における学びの一環として位置づけられ、「学習意欲の喚起」「職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムです。

インターンシップに参加することで、大学での学習内容や専門分野が実社会でどのような意味を持つのかということを確認し、その後の大学での学びや学生生活の充実に結びつけるとともに、「働く」ということ、「仕事」というものを理解することで卒業後の進路選択に役立てることができます。

【参加団体数と出願者・受講者数の推移】



大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムの特徴

特1 徴

「京都地域にある50の大学・短期大学のすべての学生が対象です」

京都地域の大学連合体である大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムの最大の特徴は、加盟大学・短期大学を中心に、大学の規模や専門分野、学年が違ってもさまざまな学生が参加することです。多様な価値観に触れ、同じ目的をもつ仲間と出会い、他大学の学生と交流を図ることができます。

特2 徴

「実習だけでなく、充実した事前学習・事後学習が行われます」

単に就業体験をするだけでなく、少人数クラスでの事前・事後学習を行います。各クラスを担当するコーディネーターの指導のもと、事前学習では、自分自身の考えや実習の目的意識をより深めるために、業界の研究やインターンシップの目標設定・仮説を構築することをめざすとともに、ビジネスマナー講習・パソコン講習など社会人として必要な基礎知識や技能を学びます。また、事後学習では、実習の振り返りや仮説の検証、今後の目標設定を行います。

特3 徴

「10年間の豊富な実績でサポート」

1998年に導入されたインターンシップ・プログラムは、国内最大の規模を誇るプログラムです。これまでの10年間の実績は、現在のインターンシップ・プログラムに大きく活かされています。



単位互換制度で広がる 学びの可能性

Point 1

国・公・私立大学も音楽・芸術系も学べる 「大学のまち・京都」ならではの単位互換制度

「単位互換制度」とは、所属大学以外の講義を履修することができ、さらにそれが所属大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都がサポートする「単位互換制度」では、京都地域を中心とした46の国・公・私立の大学・短期大学（以下、特に断らない限り、短期大学も含め「大学」と記載）が単位互換包括協定を締結し、複数の大学の講義を選択して履修することが可能。「大学のまち・京都」全体があなたのキャンパスです。

2008年度は、一大学だけでは味わえない京都地域の大学講義の楽しさを実感してもらうために、10のテーマに分類された506科目を開講し、皆さんの学びの可能性を広げます。

2008年度単位互換包括協定締結大学・学部一覧（右図参照）

「単位互換包括協定」を締結している大学に在籍する学部学生なら、所属大学の定める範囲内で単位互換科目を受講できます。（国内交換学生も含む）。2007年度の出願者は10,186名です。

2008年度テーマ別科目提供数（506科目）

テーマ	提供科目数	プラザ科目 ()内:コーディネート科目	オンキャンパス科目 ()内:コーディネート科目
A. 京都を探る	34	15 (4)	19 (1)
B. 歴史と文化に触れる	72	11 (2)	61 (1)
C. 美の世界に触れる	37	3 (1)	34 (0)
D. 文学の世界に触れる	11	0 (0)	11 (0)
E. ことばの魅力を知る	44	15 (6)	29 (0)
F. いのちと人間を考える	65	20 (6)	45 (2)
G. 教育とは…何だろう	29	6 (2)	23 (0)
H. 自然に学ぶ	42	5 (0)	37 (0)
I. 環境とくらしを考える	37	9 (5)	28 (0)
J. 現代社会を知る・考える	135	26 (12)	109 (0)
計	506	110 (38)	396 (4)

単位互換包括協定締結大学・学部一覧

大学・短期大学	人文科学			社会科学				自然科学				看護・保健分野		
	文学・歴史学分野	心理学・哲学分野	言語学分野	教員養成・教育学分野	芸術学分野	法学・政治学分野	経済・経営・商学分野	社会学・福祉学分野	生活科学分野	国際関係学分野	理学分野		工学分野	農・水産学分野
国立大学														
1 京都大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2 京都教育大学				●										
3 京都工芸繊維大学				●							●	●		
公立大学														
4 京都府立大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5 京都府立医科大学														●
6 京都市立芸術大学				●										
私立大学														
7 池坊短期大学	●					●		●						
8 大谷大学	●	●	●	●			●	●					●	
9 大谷大学短期大学部	●	●	●	●										
10 華頂短期大学				●			●							●
11 京都外国語大学			●				●							
12 京都外国語短期大学			●											
13 京都学園大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14 京都経済短期大学						●						●		
15 京都光華女子大学	●	●	●	●			●	●	●				●	
16 京都光華女子大学短期大学部	●	●	●	●			●	●	●					
17 京都嵯峨芸術大学				●			●							
18 京都嵯峨芸術大学短期大学部				●										
19 京都産業大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
20 京都女子大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
21 京都女子大学短期大学部	●	●	●	●				●						
22 京都精華大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
23 京都西山短期大学	●	●	●	●			●							
24 京都造形芸術大学	●	●	●	●			●							
25 京都橘大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
26 京都短期大学							●	●	●	●	●	●	●	●
27 京都ノートルダム女子大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
28 京都文教大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
29 京都文教短期大学	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●
30 京都薬科大学							●							●
31 種智院大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
32 成安造形大学				●				●						
33 聖母女学院短期大学				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34 同志社大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
35 同志社女子大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
36 花園大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
37 佛教大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
38 平安女学院大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
39 平安女学院大学短期大学部	●	●	●	●			●							
40 明治国際医療大学														●
41 立命館大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
42 龍谷大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
43 龍谷大学短期大学部	●	●	●	●			●							
44 大阪成蹊大学芸術学部				●						●				
45 大阪医科大学														●
46 早稲田大学	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

上記一覧表は2007年4月現在のものであり、2008年度は学部・学科が増設されている場合があります。各大学ホームページでご確認ください。

Point 2

京都ならではの独自科目(コーディネート科目)

「コーディネート科目」は、大学コンソーシアム京都の単位互換制度のために開講される京都ならではの科目。2008年度は、京都を多角的に研究する科目群「京都学分野」(7科目)と、行政や企業の最前線の当事者から最新情報を学ぶ科目群「21世紀学分野」(35科目)を開講しています。これらの科目を履修し、現代社会が抱える様々な問題を解決するための多角的な視点を養おう。

■コーディネート科目一例

分野	テーマ	大学	科目名
京 都 学	A. 京都を みやこ 探る	京都産業大学	歴史・観光都市としての京都文化【京都商工会議所協力講座】
	B. 歴史と文化に触れる	京都橋大学	京都の歴史と文化財Ⅲ
	C. 美の世界に触れる	龍谷大学	演劇実践入門:演じるって?
21 世 紀 学	B. 歴史と文化に触れる	京都外国語大学	地球の異文化理解(食から探る地中海文化編)
	E. ことばの魅力を知る	同志社大学	多文化コミュニケーション学の基礎 一言語研究の核となるトピックスー
	F. いのちと人間を考える	京都大学	“救命の連鎖”を学ぶ
	G. 教育とは…何だろう	佛教大学	教育実践講座 ～小・中学校における教育実践から学ぶ～
	I. 環境と暮らしを考える	京都学園大学	環境教育・富良野自然塾
	J. 現代社会を知る・考える	立命館大学	テレビの仕事人～連続トーク～

Point 3

体系的に学べる仕組み(パッケージ履修)

多数開講される科目のなかから、「京都学」、「環境学」、「多文化コミュニケーション」、「アカデミックスキル(学びの技法)」、「キャリア形成」の5つの分野の科目を体系的に学べる仕組みが「パッケージ履修」です。コア科目(パッケージ分野についての基礎的・総論的な内容を学ぶ科目)とオプション科目(パッケージ分野の各領域の発展的・専門的な内容を学ぶ科目)をセットで学ぶことで、さらに理解を深め、系統的な知識の獲得につながります。専攻と関連した分野を深く学びたい方も、専攻とは異なる分野を体系的に学びたい方も、ぜひ参考にしてみてください。



パッケージ分野	●コア科目	●パッケージ分野内の領域
京都学 「1200年の京」の奥深さに触れる	新・京都学総論(花園大学提供)	1. 行事・生活 2. 美術 3. 歴史 4. 伝統・産業 5. 宗教
環境学 「京都議定書」発祥の地で環境を学ぶ	京エコロジー概論【京エコロジーセンター協力講座】(龍谷大学提供)	1. 環境分野(地球環境・地域環境・都市環境・公害・廃棄物・生態学・環境化学・農林業・食料) 2. 社会分野(環境倫理学・環境社会学・環境教育・環境福祉) 3. 経済分野(環境経済・環境政治・環境政策・環境法) 4. 手法(環境工学・環境デザイン)
多文化コミュニケーション グローバルに活躍する基礎力をつける	学際科目1 多文化コミュニケーション学の基礎 -言語研究の核となるトピックス-(同志社大学提供) 学際科目2 多文化コミュニケーション学の応用 -言語研究の周辺となるトピックス-(同志社大学提供)	1. 多文化理解 2. 言語運用能力 3. 通訳翻訳 4. 情報発信 5. コミュニケーション論
アカデミックスキル (学びの技法) 大学生としての学び方を知る	大学での学びを知る (大谷大学提供) “大学での学び”を知る-テーマ・仮説から表現まで- (京都文教大学提供)	1. 読む(読解) 2. 調べる/考える(調査分析/思考) 3. 書く/表現する(文章表現) 4. 議論する(コミュニケーション) 5. その他複合領域
キャリア形成 これからの「生き方」を考える	学際科目2 インターンシップ入門(同志社大学提供) B特講Ⅰ(女子学生のキャリア形成 ～卒業後の人生を上手にスタートさせるために)(京都女子大学提供) キャリア開発B(立命館大学提供)	1. 働くことについて考える 2. 自分のキャリアを描く 3. 仕事を知る(一般企業) 4. 仕事を知る(行政・非営利組織) 5. 仕事を知る(ベンチャー)





京都嵯峨芸術大学短期大学部 専攻科
松井 彩香 (4回生)
京都府立東稜高等学校出身

幅広い科目を履修できることが魅力

私は京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科でデザインを専攻し、携帯電話などのような「製品」のデザインを行う「プロダクトデザイン」に取り組んでいます。

私が大学コンソーシアム京都の単位互換制度を利用したのは、大学の友人から薦められたことがきっかけです。京都地域を中心とした46の大学が提供する500以上の幅広い科目を選択して履修できることが魅力でした。「大学のまち京都」ならではのこの制度を利用して、自大学での専門科目の学習に加え、視野を広げたいと考えました。

視野を広げ、専門を深める

2007年度は、自らの専門を深めることを目的に、成安造形大学の開設科目「工芸史」を履修しました。この科目では、博物館等での工芸作品の鑑賞や講義などを通じて、工芸の歴史やその技法などについて学習します。古来の生活用品である陶磁器や漆器などの製作技法や生活様式の歴史的な変遷を体系的に学ぶことで、プロダクトデザインにつながる視点を養うことができました。

また、国際化の時代に、日本の文化や地元・京都について理解を深めたいと考え、京都学園大学の開設科目「きもの学(基礎)【(社)全日本きもの振興会寄付講座】」も履修しました。この科目では、染織や和裁の専門家が講師として登壇し、きもの概念から製作工程まで、実物を紹介しながらわかりやすく説明してくれます。この科目を学んだことがきっかけで、かんざしなどのきものを着る際に身に付ける装身具に興味を持ち、現在はきものための装身具をテーマに選び、取り組んでいます。



京都独自の学びのスタイルを活用して様々な事にチャレンジしよう

大学時代は、自分の志す分野を目指して専門を深めるとともに、視野を広げて様々な事にチャレンジする期間だと思います。私は単位互換科目の履修により、専門の「プロダクトデザイン」を深めるとともに、他大学の学生や教員、社会人の方とのネットワークを広げることで作品を展示する場を得るなど、チャンスを手にすることができました。

皆さんも「大学のまち京都」ならではの単位互換制度を活用して、充実した学生生活を送ってください。

interview

Q&A

単位互換制度について

Q₁ 単位互換制度の利用条件は？

A ◆「単位互換包括協定」を締結している大学に在籍する学部学生なら所属大学の定める範囲において、単位互換科目を受講できます。(国内交換学生も含む)。

Q₂ 受講料って必要？

A ◆受講料は無料です(科目によっては、実習費が必要な場合もあります)。

Q₃ 受講科目数や単位の制限ってあるの？卒業単位として含まれるの？

A ◆どの科目を合計、何科目・何単位まで受講できるのか、また卒業単位に含まれるかは、各大学によって取扱いが異なります。
◆単位互換制度についての質問は、所属大学の単位互換制度担当窓口(教務課や学部事務室)に聞いてください。

Q₄ 京都以外の大学の授業も受けることができるの？

A ◆早稲田大学からの夏期の科目提供を受けています。長期休暇を利用して履修できます。
◆大阪府高槻市に平安女学院大学や大阪医科大学のキャンパスがあります。
◆滋賀県にキャンパスのある大学は、成安造形大学・立命館大学(びわこ・くさつキャンパス)・龍谷大学(瀬田学舎)です。

リエゾン・共同研究事業部

■ リエゾン事業

▶ 大学地域連携モデル創造支援事業

この事業は、大学と地域が一体となった魅力的なまちづくりや地域の活性化を目的とする事業に対して、選考のうえ、助成を行う事業です。

2007年度助成事業報告会及び2008年度における事業の募集説明会を開催しました。

【日時】4月25日(金) 14:00~16:10
 【場所】キャンパスプラザ京都2階ホール
 (1) 2007年度助成事業報告
 (2) 2008年度募集説明



■ 共同研究事業

「京都市」「21世紀学」「都市政策」の3分野において共同研究推進、研究資源の公募、研究成果の発表、研究支援事務体制の構築、若手研究者の育成などを行っています。また、地域社会や市民への知の還元・情報発信を行う目的で、生涯学習事業として「プラザカレッジ講座」の開講など様々な取り組みを行っています。

▶ プラザカレッジ京都学講座「五感でよむ源氏」

2008年度プラザカレッジ京都学講座は源氏物語を取り上げ、「五感でよむ源氏」と題して、大学の研究者をはじめ第一線で活躍されている方々を講師に招き、物語にまつわる多様な文化・思想・時代背景等を紹介しています。

【開講期間】5月11日(日)~7月13日(日) <全10回>
 【会場】キャンパスプラザ京都



学生交流事業部

■ 学生交流事業

▶ 第6回京都学生祭典 KYO-SENSEプロジェクト

概要

平成15(2003)年から実施してきた京都学生祭典も年々規模が拡大し、来場者数も増えています。来場者数の増加とともに、祭典当日に発生するごみもまた増加しています。平成18(2006)年実施した第4回京都学生祭典では、約10トンものごみを出すことになりました。近年、環境への配慮が求められる中、京都学生祭典においても、第5回京都学生祭典からエコプロジェクトチームを発足させ、縁日企画においてリユース食器(洗い皿)を導入し、ごみの発生量を約半分に抑えることに成功しました。



「京都学生祭典をより京都の地に根付く祭りにしたい」「京都学生祭典を実施するにあたって、環境にかかる負荷をできるだけ減らしたい」「学生が地球環境に関して取り組むことで、学生ならではの新しいメッセージをこの京都へ、さらには全国、世界にむけて発信できるのではないか」このような学生思いから、第6回京都学生祭典では、これまでの取り組みを伸張させて「KYO-SENSEプロジェクト」を発足させています。本プロジェクトは学生から環境への配慮を促す新たなメッセージを継続的に発信していく予定です。

環境元年と呼ばれる2008年、京都議定書のCO2削減義務の実施、「環境サミット」と称される洞爺湖サミットの開催など日本国内でも地球環境問題へ取り組む気運が高まっています。京都議定書が採択されたこの地で、将来を担う学生が、市民レベルの活動を起こしていくことは意義深く、重要なことであるといえます。

「京都学生祭典が環境にかかる負荷を少しでも減らしたい!」

「この『京都』という場所で、学生だからこそ発信できるメッセージがあるはず!そして、学生からそのメッセージを発信し、京都学生祭典をより京都に根ざした市民祭りにしていきたい!」

という2つの想いを軸にKYO-SENSEプロジェクトを進めていきます。

高等教育研究推進事業部

■ 高等教育研究推進事業

▶ 2007年度「第13回FDフォーラム」を開催

2008年3月8日(土)・9日(日)、立命館大学衣笠キャンパスにて「大学教育と社会—FD義務化を控えて—」をテーマに「第13回FDフォーラム」を開催しました。

FDとは「ファカルティ・ディベロップメント」の略で、教員が授業内容・方法などを改善し向上させるための組織的な取り組みの総称です。大学コンソーシアム京都では、1995年よりFDの普及並びに大学教育、授業改善に関する交流の場として「FDフォーラム」を継続して開催しています。

2008年度「第13回FDフォーラム」では、1日目、シンポジウム(コーディネーター:河原地英武 京都産業大学教授、シンポジスト:中村正 学校法人立命館常務理事、飯吉弘子 大阪市立大学大学教育研究センター専任研究員准教授、滝紀子 河合塾教育研究開発本部教育研究部長によるパネルディスカッション)を開催し、全国から1,141名が参加され熱心な討論に耳をかたむけました。また2日目には、3つのミニ・シンポジウムと9つの分科会を開催し、831名が参加され活発な意見交換が行われました。



◆ KYO-SENSE共同宣言(5月15日)

KYO-SENSEプロジェクトを開始するにあたり、特別協賛社である京都駅ビル開発株式会社とともに、JR京都駅ビル 駅前広場(グランヴィア前)に共同宣言特設会場を設け、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長ほか、社団法人京都経済同友会まつり創成プロジェクト委員長、財団法人大学コンソーシアム京都理事長、京都駅ビル開発株式会社代表取締役社長(出席は、代理として常務取締役営業部長)にも賛同者としてご出席いただき、広く一般に告知する機会を設けました。

また当日は、京都学生祭典オリジナル創作おどり「京炎 そでふれ!」や全国学生音楽コンテスト第1回グランプリのChicago Poodleのスペシャルライブも行われ、共同宣言イベントが華やかに行われました。この共同宣言当日の様子は、α-STATION FM KYOTOにて公開中継を行いました。



◆ KYO-SENSE勉強会(6月12日)

京都学生祭典の実行委員に、環境問題やエコ活動への関心や意識を共有化するために、「KYO-SENSE勉強会」を開催しました。

勉強会開催にあたっては、企業の取り組みとして環境を意識して経営されておられる滋賀銀行会長の高田紘一氏をお迎えしました。高田氏には、講演会とともに学生とのディスカッションをお願いし、今後学生が主体的に環境問題に関わるきっかけを作ってくださいました。



◆ 今後の予定

- ・京都の打ち水
- ・ふるしぎの普及活動
- ・京都市内での清掃活動
- ・環境問題を題材とした講演会などの実施
- ・京都学生祭典当日企画「縁日」でのリユース食器使用
- ・京都学生祭典当日のゴミ分別の徹底
- ・京都学生祭典当日イルミネーション企画での消費電力の少ないLEDの使用
- ・京都学生祭典当日の環境問題に関するパネル展示・エコ啓発ブースの設置
- ・本祭後の集団清掃
- ・第6回京都学生祭典におけるゴミの計量

2008年度「第1回FDセミナー」

FDの最新の動向をさらに詳しく知りたいという加盟大学・短期大学の切実なご要望に一層きめこまやかに応えることを目的に、「FDセミナー」を年2回実施しています。2008年度「第1回のFDセミナー」を開催しますので、多くの関係者のご参加をお待ちしています。

- 開催日 7月26日(土) 15:00~18:00
- 会場 キャンパスプラザ京都 5階 第1講義室
- テーマ FDネットワークの構築に向けて
一大学教育の質保証のために
- 報告者 山本 浩氏(上智大学 教授)
松下佳代氏(京都大学 教授)
- 司会 松本真治氏(佛教大学 准教授)

第6回京都学生祭典のご案内 【主催】京都学生祭典実行委員会

10月11日(土) 京都駅ビル・新風館
12日(日) 平安神宮・岡崎周辺

詳しくはHPをご覧ください。
<http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>

第6回京都学生祭典開催!

企画、運営からすべてを学生がプロデュースし、産・学・公・地域の協力を得て、開催するお祭「京都学生祭典」。

第6回は、「祭でつなげ! ~ひと・地域・未来の架け橋~」をコンセプトに、地域に根ざした他にはない祭を創りあげていきます。1日目は「音楽」企画を中心に実施。京都駅ビルで、全国学生音楽コンテスト「Kyoto Student Music Award」を開催。また新風館(烏丸姉小路下ル)では「街の音楽会」を開催します。

2日目は「おどり」の企画を柱に、平安神宮・岡崎周辺でノンジャンルのおどりコンテスト「京炎 そでふれ! 全国おどりコンテスト」を開催。食べて、遊べる「縁日」や大学等と連携をして実施する新企画「来て見て体験! みやこコレクション」など、様々な世代の方に楽しんでいただける企画を用意しています。そして、祭典の最後を飾る「Grand Finale」では、京都学生祭典オリジナル創作おどり「京炎 そでふれ!」を来場者、出演者とともに6,000人の総おどりで平安神宮境内を熱気で包みます。参加するすべての人と感動を分かち合う2日間にご期待ください。

※昨年度は、21万5500人の方にご来場いただきました。



京都外国語短期大学

CAMPUS SCENE



京都外国語短期大学は、夜間2年制・男女共学の短期大学です。キャリア英語科には、英語コミュニケーションと観光文化の2つのコースを有し、年齢も環境も異なる多様なライフスタイルの学生がともに学んでいます。キャリア英語科では、国際社会のなかで真に役立つ英語力を身につけることができ、本学が企業と協力し独自に開発したホスピタリティ英語教材を活用するなど、ビジネスの現場で即戦力となる人材の育成に力を入れています。